

【施策評価調査】

施策名	1-2-1	幹線道路の整備		73	主要幹線道路(国・県道)を補完する道路ネットワークを形成すること、道路整備の必要性、効果についてわかり易い情報開示を行い、住民との対話と情報化を実現すること、住民参加による道路整備・維持・管理技法を確立すること、土地区画整理事業と連携して道路整備を進め、生活環境を向上すること、 ですが、そのうちの施策については、の円滑な移動に向けた道路網の形成と道路の修繕を迅速かつ効率的に行うことを目的とします。
	高根沢町地域経営計画2006 該当ページ				
担当部課	建設産業部都市整備課	担当	都市整備担当		
		リーダー	阿久津 靖		
環境変化					施策内容 より円滑な道路網の形成に向けて、国道・県道を補完する町幹線道路24路線のうち15路線を道路評価システムに基づき整備を行います。平成22年度までに新設改良道路は8路線中4路線を、舗装修繕路線は8路線中6路線の整備完了を目指します。また、芳賀高根沢工業団地間連続渋滞対策をはじめとする3路線の新設改良と、交通量が多く道路の傷みが激しい2路線の舗装修繕にも着手します。(「高根沢町地域経営計画2006」からの抜粋)

指標

施策の評価指標	基準値	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
指標：幹線道路整備進捗率(%)	平成16年度までの整備進捗率(町幹線道路24路線中8路線が完成 8/24路線)	計画	37.5%	41.6%	50.0%	62.5%	75.0%
		実績	37.50%	37.50%	41.67%		
指標：市町村道舗装率(%)	平成16年度町道舗装率(簡易舗装含む)	計画	81.2%	81.5%	81.8%	82.1%	82.4%
		実績	81.20%	81.50%	81.50%		
指標：		計画					
		実績					
指標に関する特記事項							

施策に係る事業費(傘下事務事業費計)の推移	年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
	当初	135,617,000	143,750,000	91,000,000		
	決算	142,989,679	77,740,060	72,190,000		

事務事業事後評価 20年度の検証

施策傘下事務事業	事業費	活動量(アウトプット)	施策への貢献度	施策達成にどう貢献しましたか?(アウトカム)			
町道436号線道路改良事業費	当初 30,000,000	全線完了916m	A	那須烏山市へ通じる道路ネットワークを形成することができる。(翌年度へ繰越)			
	決算 11,329,500	0% / 85%		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
町道348号線道路改良事業費	当初 11,000,000	工事延長450m	A	損傷が激しい路面を修繕することや水溜りを改善することにより、騒音・振動を抑制し、快適な生活環境の向上を図ることができる。(翌年度へ繰越)			
	決算 8,690,000	429.8m / 450m		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
町道380号線舗装修繕事業費	当初 50,000,000	工事延長750m	A	舗装修繕を効率的に実施することにより、通行者のスムーズな走行が可能となり、安全かつ快適な交通環境を確保できた。また、維持修繕費の抑制にもつながった。			
	決算 49,444,500	1,066m / 750m		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続
都市計画道路宝積寺南通り道路改築事業費 補正	当初 0	地元との合意形成	A	宝積寺駅西土地区画整理地内及び宝積寺市街地と国道4号線とのアクセスが整備されることにより、住民生活の利便性の向上が期待できる。また、歩道も整備され、歩行者の安全が確保される。(翌年度へ繰越)			
	決算 2,726,000	0% / 100%		今後の方向性(自己評価)	継続	今後の方向性(総合評価)	継続

施策事後評価 20年度の検証

自己評価	施策達成状況に関する評価	課題と今後の方向性
	国の施策あるいは関係機関との調整の関係で、繰越事業が多く評価は困難であるが、施策の方向性は間違っていない。	事業の早期完了を目指すとともに、整備後の効果を検証し、後期計画に向けて、町の財政状況や町民の要望を反映させた施策を展開していく必要がある。
総合評価	<p>継続的に施策展開されていると評価するが、整備前の状況を踏まえつつ、路線の整備効果としてなぜ必要とされる路線なのか調書で必ず示せるよう、整備前はもちろんだが、整備後の検証・評価も行うこと。</p> <p>後期計画に向けて成果指標を見直すとともに、社会状況の変化を見極めつつ、医療より福祉より道路なのか?という視点で事業の優先順位を決めていく、そのためにも道路評価システムの見直しが必要であるとともに、他課で行う他の施策とつながりのある視点を持ち、財政状況を勘案した施策展開を検討すること。</p>	